

岩手県文化財調査報告書第60集

東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書

— XI —

(水沢地区)

昭和 56 年 3 月

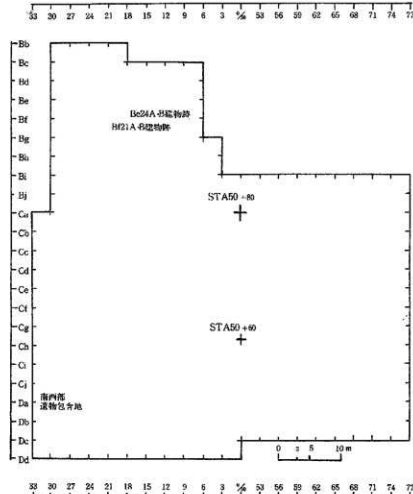
岩手県教育委員会  
日本道路公団

東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書

— XI —

(岩手県文化財調査報告書第60集東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 XI (水沢地区) 正誤表)

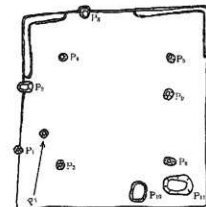
頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
例言	14	アイソトープ	アイソトープ	141	第5図	pH 番号を図の横に付す。	
目次	埋蔵地	第4号(Bj 74)	第2号(Bj 74)	146 148 154	註記	混	混じ
#	西田 遺跡地	2	262	149	16	濁じる	混じる
序文	10	実施	実施	158	23	方法	方形
3	平泉 丘陵	内縁安山岩	内縁安山岩	161	8	内形	円形
#	北上 山地	東傾	東傾	#	17	cm位	cm程
36	断面概 図上2	硬質土混入	砂質土混入	#	10表	下場標高	下端標高
57	B→B' 断面図	土層指示線に3を加筆する。		167	17表	平均	平均
62	8	黒曜石破片	黒曜石破片	168	26	m	mm
65	除去後 の図	炭火材	炭化材	228	14行 6表	Bf 27	Cf 27
70	1	黒曜石片	黒曜石片	244	12	出土物で	出土物のひとつは
72	17	焼夷家屋	焼夷家屋	255	22	抜きにして	条件に入れなければ
86	23	施納	施納	256	11	か	が
90	8	肋骨	肋骨	257	7	あるが	あり
111	ツボ	口頭	口頭	266	註	(土壕断面図の注の中間)	I
#	#	ツボとツキの境界線は底部技法と体部の間に入る。		#	題	深堀り	深堀り
115	表26表	Ai 65	Ai 65(旧)	280	28行	ほぼ完形	(削除)
#	#	表右端(仮称)前・後半の境界線はBh 09とBh 24の間に入る。		286	4	手捏ね	手捏ね
119	4	集巾出度	集巾出土	298	1	結果に	結果に
123	第2図	黒曜石	黒曜石	写真図版			
125	26	営なまれ	営まれ	今泉	13図	礫状況	礫状況
127	4	水系	水系	稲欠市	15図	墨書	墨書
135	第3図	Be 24 A・B建 Bf 21 A・B建	Bo 24 A・B建物跡 Bf 21 A・B建物跡	分析 資料	No.25	(坏)	(表)
#	#	縮尺 $\frac{1}{300}$ を加筆、その他別図を参照					
139	5	Bd 21構*	Bd 21溝*				



第3図 グリッド配置図(135頁)

「地区概観遺跡分布図」

- 国遺跡位置は詳細な位置に下れて表示されてあるが便宜上のため
- 国遺跡番号(○→◎)(田→◎)と入札物と訂正
- 国遺跡番号及び時代を(田→◎)(田→◎)と入れ換えて訂正
- 国指定時代別の遺跡名「縄文時代に中間区を含む平安時代より中間区を削除」
- 一応表 田小淵沢 田築巻土 田筑巻 田古沢崎北遺跡 田築巻古岩 田築巻池 田築巻池 田築巻池(「田表」) 田築巻池 田築巻池 田築巻池(田表)
- 国遺跡位置は右側より左側という順序の列で表示し、90は5と5を記号の上にまで平均標高を添え、それを訂正する。
- 野上にて2の訂正



第5図 cf53竈穴住居跡(141頁)

## 序

地域開発に伴う道路など交通網の整備事業は、社会の進歩発展からくる現代の必然的な要請であり、本県においても、そのための建設事業が多く計画・実施されております。しかしながら、私達には祖先が長い歴史の中で創造し、伝えてきた貴重な文化遺産を、保護するとともに、新たな文化創造の糧として活用していく責務があります。

国土開発計画に基づいて県内を南北に縦貫してつくられる東北自動車道は、産業経済開発の大動脈として多方面からの期待をになう国家的な大事業であり、一関・西根インター間がすでに供用され、現在は更に秋田・青森県境へと工事が進められております。

岩手県教育委員会は、この供用区間に関係した99遺跡について、日本道路公団仙台建設局の委託によって、昭和47年から昭和53年までの7年間にわたって発掘調査を実施し、その整理と報告書の作成を、昭和53年度から4か年計画で実施しております。

本報告書は、東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書の第Ⅺ分冊目として、水沢市に所在する「今泉・西大畑・南矢中・西田・前谷地・袖谷地」の6遺跡について、調査結果をとりまとめたものであります。なかでも、古式土師器を出土した西大畑遺跡、奈良時代の集落跡を検出した今泉遺跡は、当地域における胆沢城建置以前の歴史解明に、貴重な成果を提示いたしております。

この報告書が、記録保存の成果として社会教育や学術研究の場に役立つことを切に願いたします。

ここに、調査について御援助・御協力をいただいた地元教育委員会はじめ関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

昭和56年3月

岩手県教育委員会

教育長 新里 盈

## 例 言

1. 本書は東北縦貫高速自動車道関係遺跡発掘調査報告書第11分冊として、水沢地区（水沢市〈石田遺跡を除く〉）所在の6遺跡について作成したものである。
2. 遺跡の記載は、北から順に編集した。
3. 調査および整理にあたって、次の方々と機関のご教示を賜った。（敬称略・順不同）  
板橋源（岩大名誉教授） 草間俊一（県文化財保護審議員） 司東真雄（同） 中川久夫（東北大学） 庄子貞雄（同） 安田喜憲（同） 日比野絃一郎（同） 林謙作（北海道大学） 伊藤鉄夫（水沢市） 伊藤陽夫（同） 佐久間豊（千葉県教育庁文化課） 鈴鹿良一（福島県教育委員会文化課） 渡辺泰伸（仙台育英学院高等学校） 水沢市教育委員会 岩手県埋蔵文化財センター 宮城県教育庁文化財保護課 東北歴史資料館 須藤 隆（東北大学）
4. 資料の鑑定、分析等については、次の方々と機関のご教示・ご協力を賜った。（敬称略・順不同）  
・石材鑑定－佐藤二郎（岩手県立大船渡農業高等学校）  
・樹種鑑定－早坂松次郎（県木炭協会・経営指導員）  
・土器胎土分析－照井一明（岩手県立種市高等学校）  
・カーボンデイトーピング－日本アイリトープ協会  
・土器胎土分析－岩手県工業試験場
5. 本書に掲載した地形図は、建設省国土地理院発行の5万分の1地形図・20万分の1地勢図を使用したものである。
6. グリッド配置図は、日本道路公団作成による「東北高速道計画」図を使用し、遺跡、遺構等の方向表示は同図の第10系座標系の北方向である。
7. 遺跡における層相の色調観察は、小山・竹原編著「新版 標準土色帳」日本色研事業団を使用した。
8. 遺物・写真・実測図等の資料は岩手県教育委員会事務局文化課において保管している。
9. 調査主体者・岩手県教育委員会・日本道路公団
10. 調査担当者・岩手県教育委員会事務局文化課
11. 発掘調査・整理報告書作成等に関する担当者は以下の通りである。尚、序文の執筆は、吉田努、相原康二。水沢・金ヶ崎地区概観の執筆は、相原康二、一部狩野敏男が担当した。

	整理・執筆者	発掘調査者
今泉遺跡	八重樫良宏、相原康二	勝股国夫、相原康二、三浦謙一、菊池茂樹
西大畑遺跡	島 隆	島隆、相原康二、昆野靖
南矢中遺跡	狩野敏男	瀬川司男、勝股国夫、島隆、菅原悟、長谷川賢、大和泉芳子
西田遺跡	相原康二	瀬川司男
前谷地遺跡	相原康二	瀬川司男
袖谷地遺跡	狩野敏男	瀬川司男、長谷川賢、大和泉芳子

# 目 次

## 序 文

1. 経 過
2. 調査の方法について
3. 整理について

## 本 文

### 水沢・金ヶ崎地区概観

1. 地形概観…………… 1
2. 遺跡の立地について…………… 5

### (1) 今 泉 遺 跡

I 遺跡の立地と層序……………	15
(1) 遺跡の立地……………	15
(2) 遺跡の層序……………	15
II 発見された遺構と遺物……………	17
Ai 65 竪穴住居跡……………	17
Ai 62 * ……………	21
Bb06 * ……………	23
Bc53 * ……………	26
Bc71 * ……………	29
Bd03 * ……………	31
Bd12 * ……………	35
Bd59 * ……………	39
Bf09 * ……………	46
Bf15 * ……………	49
Bf53 * ……………	51
新期Bg62 * ……………	55
旧期Bg62 * ……………	62
Bh09 * ……………	63
Bh71 * ……………	70

Bi 15 竪穴住居跡……………	72
Bi 24 * ……………	75
Ca09 * ……………	80
Ca18 * ……………	81
Cb24 * ……………	85

III 考察とまとめ……………	89
遺構要約……………	89
出土遺物とその考察……………	94
〔1〕 土器について……………	94
(1) 各器種の分類と特徴……………	94
(2) 遺構における各種土器の共存関係 ……	103
(3) 土器の器面調整技法の検討……………	109
(4) 土器の編年の考察……………	114
〔2〕 鉄器・装飾品について……………	119
〔3〕 石器について……………	121
〔4〕 土製品について……………	121
〔5〕 黒曜石について……………	121
〔6〕 破砕礫について……………	125

### (参考資料)

集落の構成の要素と予察……………	126
集落に関する予察……………	127
<sup>14</sup> C測定結果 ……………	130

### (2) 西 大 畑 遺 跡

I 遺跡の位置と立地……………	133
II 調査の経過……………	134
III 遺跡立地面の基本的層序……………	134
IV 検出遺構と出土遺物……………	137
(1) 溝状土壇……………	137
(2) 溝……………	137

(3) 竪穴住居跡	140
(4) 掘立柱建物跡	157
(5) 南西部遺物包含地	166
V 遺物包含地、その他の出土遺物	166
(1) 縄文・弥生土器片	166
(2) 剥片石器	167
(3) 土師器内黒双耳環	168
(4) 土製紡錘車	168
(5) 直 刀	168
(6) 古 銭	168
(7) 環とその分類	168
(8) 土師器・壺、甕、甗とその分類	176
(9) 高台環とその分類	178
(10) 須恵器・壺、鉢、長頸瓶	178
VI 考察とまとめ	197

(3) 南 矢 中 遺 跡

I 遺跡の位置と立地	207
II 遺物包含層	207
III 検出遺構と出土遺物	208
[1] 縄文時代の遺構と遺物	208
[2] 古代の遺構と遺物	222
(1) 竪穴式住居跡	222
(2) 方形溝状遺構	243
(3) 焼土遺構	246
(4) その他の遺構	248
[3] その他の遺構	252
IV まとめ	255

(4・5) 西田・前谷地遺跡

(6) 袖 谷 地 遺 跡

I 遺跡の位置と立地	265
II 遺物包含層	265
III 検出遺構と出土遺物	267
[1] 縄文時代の遺構と遺物	267
[2] 古代の遺構と遺物	270
(1) 土 壤	270
(2) 竪穴式住居跡	272
(3) 溝	288
IV まとめ	288

(7) 巻末〔I〕胎土分析資料

(1) 岩石学的方法による胎土分析結果	293
(2) 蛍光X線分析による胎土分析結果	297
(3) 分析結果に関する若干の問題提起	298

(8) 巻末〔II〕参考資料

1. 県南部における古代の土器編年試案	299
2. 県南部を中心とした古代の住居跡の変遷	302
3. 付図一第1・2図	305 307

写真図版

今泉遺跡	1
西大畑遺跡	39
南矢中遺跡	55
袖谷地遺跡	83
水沢地区関連胎土分析資料	97
岩手県教育委員会事務局文化課職員一覧 (埋蔵文化財関係)	119

## 図版目次

道跡・遺構名	遺構番号	頁	遺物番号	頁	写真番号	頁	道跡・遺構名	遺構番号	頁	遺物番号	頁	写真番号	頁
水沢地区概観図	第1図	7					Bi15竪穴式住居跡	第18-1図	73	第18-2図 18-3	76 77	20 22 24	22 24 26
							Bi24 *	19-1	78	19-2	79	22 23 24	24 25 26
<b>今泉道跡</b>							Ca09 *	20-1	80	20-2	81	26	28
道跡地形図	第1図	13			第1/2図	3 4	Ca18 *	21-1	82	21-2	84	24 25	26 27
層序概念図	2	15					Cb24 *	22-1	85	22-2	87	25 26	27 28
遺構配置図	3	16			1 2	3 4	<small>竪穴住居跡平面形復原図版23図89頁、竪穴住居跡主軸方向断面 内定図版24図90頁、埴輪の遺構区分図25図92頁、各遺構の器種別個 体数と組成率26図93頁、土器以外の実測図版27図93頁</small>						
Ai65竪穴式住居跡	第4-1図	17	第4-2図	9	3 4 27	5 6 29							
Ai62 *	5-1	21	5-2	22	3	5	道跡地形図	第1図	133			第1図	41
Bb06 *	6-1	23	6-2	25	4 5 27	6 7 29	道跡の基本層位図	2	134				
Bc53 *	7-1	27	7-2	28	5 6	7 8	遺構配置図(グリッド)	3	135			1	41
Bc71 *	8-1	30	8-2	31	6 7 28	8 9 30	溝状土壌(B30・Bg1) (Ba68・Bg7)	4	138				
Bd03 *	9-1	32	9-2	34	7 8 28	9 10 30	Cf53竪穴式住居跡	5	141	第15、16図	184 185	2	42
Bd12 *	10-1	36	10-2	38	8 28	10 30	Cb50 *	6	143				
Bd59 *	11-1	40	11-2 11-3	43 45	9 10 29 30	11 12 31 32	Ca21 *	7	146	16	185	2 7 8	42 47 48
Bf09 *	12-1	47	12-2	48	11 12 30	13 14 32	Bf30 *	8	148			11	51
Bf15 *	13-1	50			12 13	14 15	Bj03 *	9	151	17 18	186 187	3 9	43 49
Bf53 *	14-1	51	14-2 14-3	53 54	13 14	15 16	Cc24 * Cc24遺構	10	154	19 20 21	188 189 190	4 9 10	44 49 50
Bg62 *	15-1	57	15-2 15-3	59 61	14 17 31	16 19 33	Bi62 *	11	156	17 18	186 187	8	48
Bh09 *	16-1	65	16-2	67	17 19 33	19 21 35	Be24A・B、Bh27 (建物) Ca21、Ce65	12	159			5 6	45 46
Bh71 *	17-1	70	17-2	71	19	21	掘方・柱穴	13	160				



遺跡・遺構名	遺構番	頁	遺物番	頁	写真番	頁	遺跡・遺構名	遺構番	頁	遺物番	頁	写真番	頁
溝・その他			第21 第22図	190 191	第12図	52	その他の土壌群	第40図	254				
遺物包含地・その他(層位図・断面図)	第14図	165	23 27	192 196	13 14	53 54							
							西川遺跡・前谷地遺跡						
							遺跡・地形図	第1図	2				
南穴中遺跡													
遺跡地形図	第1図	207			第1図	57							
基本層序図	2	207					補谷地遺跡						
遺構配置図	3	209					遺跡地形図	第1図	265				
土 壌 図	4	211					基本層序図	2	265				
方位集積図	5	212					遺構配置 溝断面図	3	266			第1図	85
規模集積図	6	212											
溝状土壌図	7 4	213 220			2 6	58 62	第1～4号土壌 第5～8号土壌	4 5	269 269			11 12	95 96
縄文時代遺物			第15図	221	1	57	溝状土壌	6	270			8	92
第1号(Be71)住居跡	16	223	17 18	224 225	11 13	67 69	円形(Cb03)土壌 方形(Ca59)遺構	7 8	271 271	(17)	291	9	93
第2号(Be104) *	20	227	19	226	14	70	第1号(Bh15) 竪穴式住居跡	9	273	第10図	275	2 3	86 87
第3号(Bf56) *	21	229	22	230	15 16	71 72	第3号(Bj71) 第4号(Bj74) 竪穴式住居跡	11	277	12	279	6 8	90 92
第4号(Bg98) *	23	231	24	232	14	70	第4号(Ca68) 竪穴式住居跡	13	281	14	283	5 6	89 90
第5号(Bh06) * 第6号(Cg42) *	26	233	25	232	17	73	第5号(Ca65) 竪穴式住居跡	15	285	16	287	3 4	87 88
第7号(Da224) *	27	234			18	74	円形(Cb03)土壌 その他遺物			17	291	1 10	85 94
第8号(Df245) *	29	236	28 30 31	235 237 238	18 20	/ 76	(参考資料)						
第1～8号方形溝	32	239	34	245	21 22	77 78	I 土器粘土分析					1 20	99 118
第9～13号 *	33	241	34	245	23 24	79 80	II (1)土器群編年試案			(1)	305		
第1～6号竪土遺構	39	253	35 38	247 252	6～10 25～26	～66 ～82	(2)住居跡家遺構	(2)	307				

## 序 文

### 1 経 過

県内の東北縦貫自動車道建設は、昭和40年11月仙台・盛岡間の基本計画の決定に始まり、昭和43年4月の施行命令によって具体化される。

これによって破壊される埋蔵文化財の取扱いについては、文化庁と日本道路公団の覚書により、岩手県教育委員会がおこなうことになった。

まず、一関・盛岡間の路線予定地内の分布調査が、昭和42年及び43年に実施され、昭和45年2月19日水沢・花巻間40km、同年11月25日一関・胆沢間30km、46年2月10日石鳥谷・盛岡間29kmの路線発表がなされたことに伴い、昭和47年8月～9月に、用地巾50mで現地確認調査、同年10月インターチェンジ及び付帯施設予定地内の現地確認調査等が順次実施され、一関・盛岡間の調査対象遺跡は当初82ヶ所確認された。

これらの破壊される遺跡について、できるだけ詳しく調査記録し、遺跡のもつ歴史的価値を永く後世に伝えることを目的とし、昭和47年度に北上市・花巻市・金ヶ崎町所在の遺跡から調査が開始され、用地買収、着工順位に従って順次すすめられた。

この間、調査除外としたもの4ヶ所がある。一関市苜又遺跡は過去の開田による破壊の程度が大きく煙滅、一関市松の木遺跡は宅地化による破壊、衣川村柵形陣場跡は所在位置が路線からはずれる。衣川村二枚貝化石層は遺跡としての調査対象としないなどの理由による。

また、路線変更によって保存されたのが、平泉町伝護摩堂跡である。この遺跡は奥州平泉文化との関連が考えられ、路線発表後に路線内に所在することが確認され、急遽日本道路公団と協議し、路線を西側に変更した。一方、工事直前もしくは工事中に新しく確認追加されたものに、土取場の和賀町梅ノ木Ⅰ～Ⅳ遺跡、路線内では江釣子村下谷地B遺跡・紫波町墳館遺跡および柳田館遺跡がある。

昭和49年6月20日、盛岡・安代間53kmの路線発表があり、この区間のうち、盛岡・西根（松川まで）間が調査対象の日程にくりこまれ、当初、8遺跡が確認されたが、工事中に滝沢村卯遠坂遺跡が発見追加され、更に紫波インターチェンジの誘致新設に関連し、栗田Ⅰ～Ⅲ遺跡が調査対象となる。

以上のように、一関・西根（松川まで）区間の調査対象遺跡数は、除外、新規発見などによる変動を見て来た。このことは、埋蔵文化財保護の基本の一つとして、分布調査の重要性が改

めて問われる一面でもある。結局、調査遺跡数は、99遺跡、18市町村におよぶものとなった。

調査をすすめる一方、文化庁、日本道路公団との協議によって、前述の伝護摩堂跡を完全保存したのをはじめ、江釣子村嶋岡崎遺跡の縄文中期の大壑穴住居跡の一部分、水沢市石田遺跡では、奈良時代末から平安時代初期に相当する焼失家屋1棟、紫波町上平沢新田遺跡では、平安時代相当の焼失家屋1棟の路線境検出遺構を一部精査の上、それぞれ埋めもどし現地保存をした。

また、江釣子村猫谷地遺跡の古墳1基、紫波町墳館遺跡の墳墓1基、柳田館遺跡・盛岡市太田方八丁遺跡の一部は、施工方法や設計変更等によって可能な限りの保存策をとった。

しかし、これらの保存遺構や遺跡の管理、活用は今後十分に留意しなければならないものであり、それがなされなければ完全な保存策であったとは言い得ない。

昭和47年度に始まった調査は、昭和53年度の紫波町栗田Ⅲ遺跡を最後に終り、現在、整理作業をすすめているが、東北縦貫自動車道建設の具体化以来、事業をすすめるに当って、終始指導と助言をくださった県内外の協力者、および献身的な協力を得た関係市町村教育委員会、学校、関係諸機関、地元作業員の方々をはじめ各位に改めて敬意を表したい。

なお、西根町以北の東北縦貫自動車道関連遺跡は、(財)岩手県埋蔵文化財センターによって調査されることになり、昭和53年度から実施されている。

## 2. 調査の方法について

(1) 調査対象範囲の選定は、遺跡の中で用地内および付帯施設を含む関連部分は、すべて調査対象とした。更に、当該遺跡周辺の分布調査を可能な限り実施することにつとめ、調査地とそれをとりまく遺跡群との関連解釈の一助に資することとした。

(2) 調査対象全域に次のような地区を設定した。

①地区設定のための原点は、日本道路公団測量の路線内中心杭の任意のものに定め、それと他の中心杭の2点間を見通す直線と、原点を通りこれに直交する直線を座標の基準線とした。

②南北の基準線をもとに、30mを1ブロックとし、北から順にA・B……の記号を付し、これを東西、南北に10等分し3m×3mのグリットを設定、グリット名は北から順にa-j、南北基準線から東方へ50・53・56……。西方へ03・06・09……。の記号を付し、これとブロック記号の組合せで表わした。例えば、Aa03・Aa50のようになる。

(3) 発掘および記録について、発掘調査は絶対にくりかえしの出来ない作業である。特に、緊急調査と言う性格と記録保存を考えると、調査の過程で観察された事項は可能な限り詳細

に、しかもすべて客観的データとして記録されねばならないし、記録者の解釈と観察された事実とが混同されぬよう留意しながら①遺構群をひとつのまとまりとして把握すること、文化層が重なっている場合、層序とともにそれぞれの文化層のひろがりを実に把握すること、更に緊急調査の場合、事後の保存が困難である以上、トレンチによる部分発掘は回避すべきであることからグリッド設定にもとづく平面発掘につとめた。

②原則として3m×3mのグリッドで、調査地における遺物・遺構の分布状況を把握するため、「ちどり」状に人力による粗掘をすることにしたが、結果的に機械力の導入も多かった。遺物・遺構の検出を見た場合、その具体的内容を究明するため必要範囲の全面発掘を実施した。

③遺構が検出された場合、該当グリッド名を付した。その場合もっとも北西に位置するグリッド名で呼称することを原則とした。精査に当たっては、2分法・4分法による平面発掘に留意し、遺構の性格と内部堆積状況・構造・重複等を把握しながら完掘することとした。

④遺物は、原則としてグリッドごとに取り上げ、遺跡記号・出土年月日・出土地点・出土層位を記録し、遺構に直接関係するものや、年代決定の資料となり得るものについては出土レベル、位置を平面図に記録し、遺物番号を付して取り上げた。

⑤遺物の出土状況・層位・遺構に関する所見等の記録は、実測図・遺構カード・フィールドノートを用い、全体の問題点、進行は調査日誌に記録した。

⑥写真記録は、35mm版モノクロ、カラー・6×7cm版モノクロを主として用いた。

(4) 実測方法 ①発掘された遺構の実測は、原則として遣り方実則を用い、平板実測は補助にとどめた。②原因の縮尺は $\frac{1}{50}$ に統一したが、遺構・遺物の細部については、必要に応じて $\frac{1}{20}$ 縮尺を採用した。

(5) 関連科学との連携について、総合的な見地からの記録作業という意味で、考古学のみならず関連科学の研究者、とくに自然科学系統の分野との連携に留意し、調査現場の実見と見解を求めることにつとめた。

### 3. 整理について

整理にあたっては調査の性格(「緊急調査」と「記録保存」)を十分に考慮した。したがって可能な限り詳細な記録を作成することと、その公開を主目的とした。なおいわゆる「行政調査(とくに緊急調査)」と「学術調査」の異同を、その「現場」に投入された技術、方法の次元に還元して論ずるのは妥当ではない。「緊急調査」の「現場・調査」の位置づけについては、本課にも若干の反省点がある。

(1) いわゆる「珍品主義」・「一番主義」を排し、得た資料のすべてを観察し、それぞれに応じた記録を作成することを旨とした。各調査地(「遺跡」)・調査資料の正当な評価の資料を提示するためであるし、それが「記録保存」の趣旨にも連なるからである。その結果として記述が若干繁雑になった。ただし実際上は、調査担当者の設定仮説が整理担当者に十分に伝わっていないなどのことも目立ち、満足のいく整理を必ずしもしえなかった調査地もまた多い。遺憾である。また本書に提示した諸仮説、見解は本課の統一見解ではなく、整理担当者のそれである。具体的には、①観察事項の正確な伝達 ②仮説の提示とその展開、吟味 ③新規の仮説、問題点の提起 ④新しい資料操作法の提示、などを旨としたが、前述のように必ずしも十分には実施できなかった。

(2) 調査地はそれのみ単独での評価は避け、一定の地域内とりわけ他の「遺跡」との関係を重視して解釈・評価するように努めた。「周辺の遺跡」の項がや、繁雑にわたっているのはその為である。これは(1)の実践をめざすのみならず、遺構存在を遺跡成立の絶対条件視する見解、への反論のためにも必要であり、とりわけ埋蔵文化財保護にはきわめて重要な観点である。

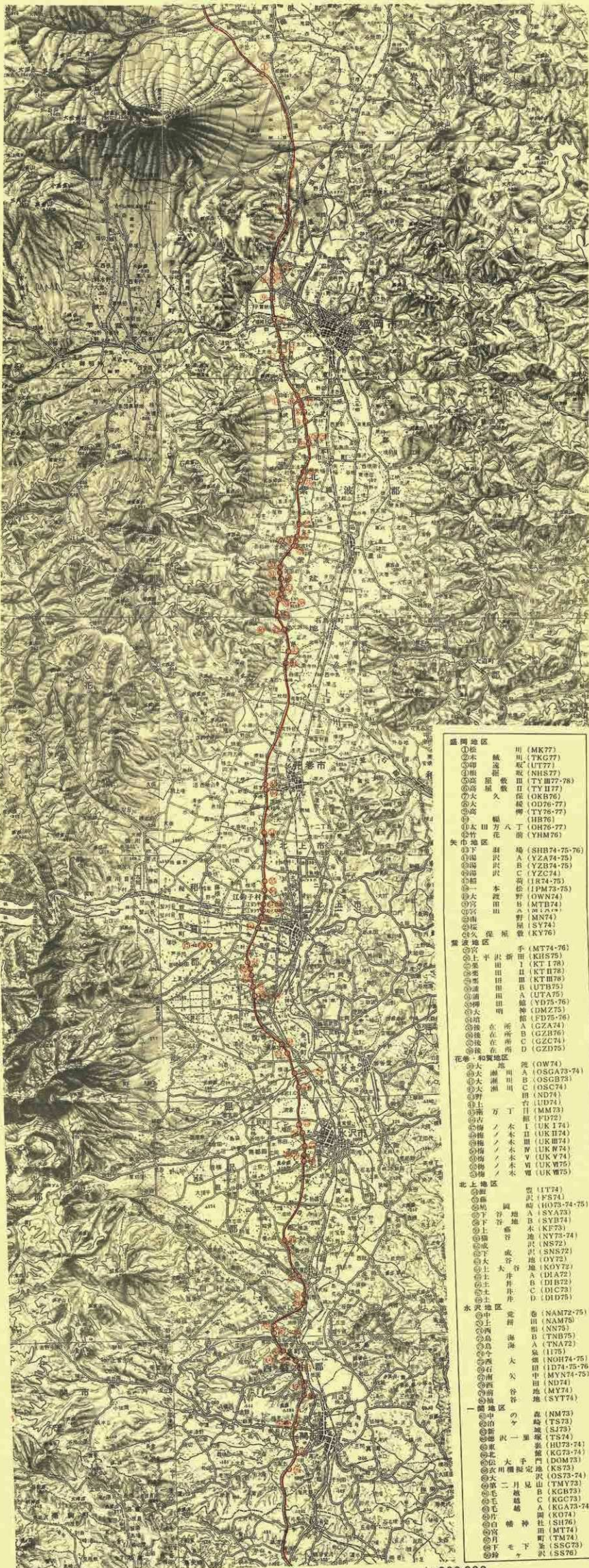
(3) 調査時と同様に「関連諸科学・諸技術との連携」に留意した。(1)で述べた目的を満足させる為に必要不可欠であり、さらにはその保存処理・各種データの蓄積・その公開も本課に課せられた責務だからである。今後の継続実施を考慮し、可能なものは努めて本県内の機関・公所・その他に連携ないし委託先を求めた。具体的実施例は、年代測定(カーボンディATING・熱ルミネッセンス法他)・材質鑑定(石材他)・樹種鑑定(木器・木材・柱脚他)・種子鑑定(炭化米・雑穀類・雑草類他)・花粉分析・人骨(歯)鑑定・獣骨(家畜を含む)鑑定・組成分析(釉薬・土器胎土・火山灰他)・燐分析・地質学的諸分析等にわたるが、今後も新分野を加える必要がある。保存処理は、木器・木材・柱脚類、鉄器類を中心に実施しているが、これも今後さらに新分野のものについて実施する必要がある。地質学的知見・教示は(2)などとの関連で、調査地および周辺の「遺跡」の立地・占地に関して、また遺物と出土層(とくに火山灰層)との関連に留意して援用した。大規模調査地については航空写真・ステレオカメラにもとづく作図を採用した。

(4) すべての対象(遺構・遺物・「遺跡」)について、技法的分析に加え組みあわせ重視の観点をも加えてある。

(5) 以上の技術的基準・指標として『出土遺物の整理について』(昭和47年作成のち一部修正)を作成し大略それに準拠した整理を実施した。細部は省略するが、大枠は①観察事項を正確に伝えるための作図法他の技術的部門、②文章表現上の留意点とからなる。後者については観察事項と解釈の峻別・不明事項の不明の理由明示などがとくに求められている。

(6) 得た膨大な資料の公開は、別途計画のもとに実施されるであろう。





- 盛岡地区
  - ①松木 (MK77)
  - ②根尾 (TKC77)
  - ③根尾 (UT77)
  - ④根尾 (NHS77)
  - ⑤根尾 (TY田77-78)
  - ⑥根尾 (TY田77)
  - ⑦根尾 (OKB76)
  - ⑧根尾 (OD76-77)
  - ⑨根尾 (TY78-77)
  - ⑩根尾 (IB76)
  - ⑪根尾 (OH78-77)
  - ⑫根尾 (YHM76)
- 矢野地区
  - ①矢野 (SHB74-75-76)
  - ②矢野 (YZA74-75)
  - ③矢野 (YZB74-75)
  - ④矢野 (YZC74)
  - ⑤矢野 (IB74-75)
  - ⑥矢野 (IPM73-75)
  - ⑦矢野 (OWN74)
  - ⑧矢野 (MTB74)
  - ⑨矢野 (MN74)
  - ⑩矢野 (SY74)
  - ⑪矢野 (KY76)
- 平野地区
  - ①平野 (MT74-76)
  - ②平野 (KHS75)
  - ③平野 (KT I 78)
  - ④平野 (KT II 78)
  - ⑤平野 (KT III 78)
  - ⑥平野 (UTB75)
  - ⑦平野 (UTA75)
  - ⑧平野 (YD75-76)
  - ⑨平野 (DMZ75)
  - ⑩平野 (FD75-76)
  - ⑪平野 (GZA74)
  - ⑫平野 (GZB76)
  - ⑬平野 (GZC74)
  - ⑭平野 (GZD75)
- 花巻地区
  - ①花巻 (OW74)
  - ②花巻 (OSGA73-74)
  - ③花巻 (OSGB73)
  - ④花巻 (OSGC74)
  - ⑤花巻 (ND74)
  - ⑥花巻 (UD74)
  - ⑦花巻 (MM73)
  - ⑧花巻 (FD72)
  - ⑨花巻 (UK I 74)
  - ⑩花巻 (UK II 74)
  - ⑪花巻 (UK III 74)
  - ⑫花巻 (UK IV 74)
  - ⑬花巻 (UK V 74)
  - ⑭花巻 (UK VI 74)
  - ⑮花巻 (UK VII 74)
  - ⑯花巻 (UK VIII 74)
  - ⑰花巻 (UK IX 74)
  - ⑱花巻 (UK X 74)
- 北上地区
  - ①北上 (IT74)
  - ②北上 (FS74)
  - ③北上 (HO73-74-75)
  - ④北上 (SYA73)
  - ⑤北上 (SYB74)
  - ⑥北上 (KF73)
  - ⑦北上 (NY73-74)
  - ⑧北上 (SNS72)
  - ⑨北上 (SNS71)
  - ⑩北上 (OY72)
  - ⑪北上 (KOY72)
  - ⑫北上 (DA72)
  - ⑬北上 (DI B72)
  - ⑭北上 (DIC73)
  - ⑮北上 (DI D73)
  - ⑯北上 (DI D75)
- 水沢地区
  - ①水沢 (NAM72-75)
  - ②水沢 (NAM75)
  - ③水沢 (SN73)
  - ④水沢 (TNB75)
  - ⑤水沢 (TNA72)
  - ⑥水沢 (IH75-74-75)
  - ⑦水沢 (ID74-75-76)
  - ⑧水沢 (MYN74-75)
  - ⑨水沢 (ND74)
  - ⑩水沢 (SYT74)
- 一関地区
  - ①一関 (NM73)
  - ②一関 (S I 73)
  - ③一関 (S J 73)
  - ④一関 (TS74)
  - ⑤一関 (HU73-74)
  - ⑥一関 (KG73-74)
  - ⑦一関 (DOM73)
  - ⑧一関 (KS73)
  - ⑨一関 (OS73-74)
  - ⑩一関 (TM74)
  - ⑪一関 (KG74)
  - ⑫一関 (KGB73)
  - ⑬一関 (KGC73)
  - ⑭一関 (KGA73-74)
  - ⑮一関 (KT74)
  - ⑯一関 (SH76)
  - ⑰一関 (MT74)
  - ⑱一関 (TM74)
  - ⑲一関 (SSC73)
  - ⑳一関 (SS76)

第3図 岩手県における東北縦貫自動車関係連綿分布図

1:200,000

本 文



## 水沢・金ヶ崎地区概観

### 1. 地形概観

本地域の地形は他地域と同様に、中央を南流する北上川と、それに沿って形成された北上川河岸低地（河谷平野）により東西に二分される。東岸では北上山地西縁山麓に属する開析の進んだ丘陵性の山地（標高300～400m）が優越し、段丘地形の発達は、これを開析する北上川支流の谷に沿って若干見られる程度である。

西岸においては、まず奥羽山脈東縁部にあたる山地とその麓部の丘陵地が西・南方にひかえる。山地・丘陵地東縁外方には広大な段丘地形が模式的に発達する。この東西岸における地形発達の対照性は顕著なものである。山地に源を発し東流する諸河川（和賀川・夏油川・黒沢川・胆沢川他）により数地区に区分されているが、以下には二地区に分けて、主に段丘地形について記す。

#### (1) 花巻—金ヶ崎間

ここに発達する主な段丘は高位から順に、西根段丘・村崎野段丘・金ヶ崎段丘である。西方山地はこの地域でもっとも西に遠のき、段丘発達区の中は北上川全流域中でもっとも広い。和賀川・胆沢川間では山地東縁部に丘陵性台地が続き、その高さは段丘面群との比高約50～100mである。この台地は古期段丘群に含まれる可能性がある。

山麓部から東方へ扇状地状に広がる金ヶ崎段丘と、その間に取り残された形でかなりの広面積を占める村崎野段丘が優越し、両者でこの地域の大半を占める。西根段丘は六原付近において金ヶ崎段丘にとり囲まれて残片的に分布する他、西方の山地縁部に発達する。

西根段丘はかなり開析されており、頂面縁部は丸味をおびる。傾斜は村崎野段丘よりは急であるが、金ヶ崎面よりは緩い。関東の多摩段丘相当と考えられている。前沢火山灰と黒沢尻火山灰がのる。

村崎野段丘は比較的新鮮な面を保ち、かつもっとも傾斜が緩やかである。黒沢尻火山灰がのる。なお豊沢川～和賀川間のこの面上の飯豊森・飛勢森は、第三系に属する安山岩および安山岩質凝灰角礫岩・凝灰岩（稲瀬安山岩）よりなる残丘である。関東の下末吉段丘に相当し、Riss-Würm間氷期に相当しよう。最低2期に細分可能らしい。

金ヶ崎段丘は西方山地より東方に広がる扇状地状の段丘面を有し、その内に高位段丘を残丘状にとり込んでいるが、面の傾斜は村崎野段丘面よりも急であり、内方では村崎野面より高く構成層がこれを被う。扇状地形は寒沢川・尻平川・夏油川・黒沢川などが山地を離れる部分を頂点として広がり、これらの河川よりはるかに広い流域をもつ和賀川沿いでは著しい扇状地形

を示さない。これは火山灰に被われていない。傾斜が急で奥地にまで入り込んで分布することから、最寒期たるWürm氷期に由来するものと思われる。これも2期に細分できるらしい。

この地域の河川もすべて北上川水系に属す。北上川以外の諸河川として、和賀川・黒沢川・永沢川・胆沢川・口内川・広瀬川・人首川・伊手川などがある。北上川沿いの河岸低地および段丘上における水系は非常に単純に東西走の姿を呈すのみである。また人工的水系パターンも多い。丘陵地においては若干複雑な形も見られるが省略する。

## (2) 金ヶ崎以南

胆沢川～衣川(北股川)間には、北上川流域最大の扇状地形が発達し、一般に胆沢扇状地といわれている。段丘群は約7つに細別されるが、大別すると高位から順に一首坂段丘・胆沢段丘・水沢段丘となり、既述の西根・村崎野・金ヶ崎の各段丘に相当する。一首坂段丘にはさらに古期のものが含まれている可能性もある。これらの段丘面群は市野々付近を頂点として東方に展開するが、各段丘は南から北へ順次新規のものがならぶ。もっとも広範囲を占めるものは胆沢段丘である。この地域では、一首坂段丘の残丘と思われるものが胆沢段丘上に2ヶ所(見分森・養ヶ森)に存在する他は、段丘面群の交叉は殆ど見られない。

一首坂段丘は衣川・北股川北岸に沿って分布し、段丘面の開析が進んでいる。一首坂火山灰層をのせる。背面には、北股川・南股川合流点の北方に急傾斜部がある。

胆沢段丘は扇央～扇端部においてさらに4段に細分され、高位から順に上野原・横道・堀切・福原の各段丘と呼ぶ。配列は同様順で南から北である。高位の2段と堀切段丘の一部は西方へ取れんし、福原段丘は堀切段丘に取れんし、さらに西方で堀切段丘が分岐する。福原段丘では黒沢尻火山灰がのり、その下半に村崎野浮石が見られる。

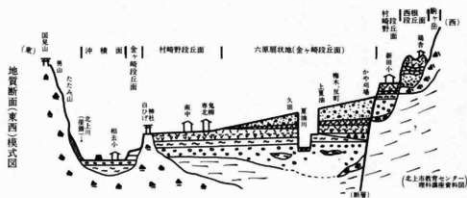
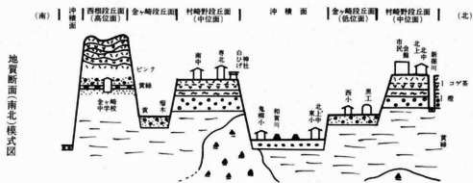
上野原・横道・堀切の各段丘には、黒沢尻火山灰と、その下位に前沢火山灰がのる。

水沢段丘は胆沢川南岸および北上川沿いによく発達し、新鮮な面を保つ。水沢市北部では河岸低地との比高約10mであるが、下流方へ次第に比高を減じ、段丘崖も若干不明瞭となる。なお、北常盤から西北方に向かって大規模な沖積面(凹部)が走り南北に二分される形をとる。

本地域の流水も北上川水系に属する。北上川に合流する諸河川はいずれも大略東西走のものである。東岸の支流は荒川(人首川と伊手川の合したもの)、大田代川、兵士沢その他の丘陵地に発する小規模なものである。西岸には胆沢川、永沢川、太郎ヶ沢、岩堰川、白鳥川、北股川・南股川の合した衣川などがある。人工的改変をうけていることにもよるが、胆沢扇状地上の水系は単純な形態をとっている。

大略以上が本地域の段丘を中心とした地形のあらましである。各段丘面はその面上の小河川によりそれぞれ開析され、小規模な沖積地・自然堤防その他を形成しており、一様な景観を示すものではない。





北上図域 層序区分

(北上市教育センター理科講座資料及び地質学ハンドブック「築地書館」より)

年代区分 (10 <sup>3</sup> 年前)	平坦面	文化層	地層	凡例		
新 生 代	沖積世	1.0	沖積面 新石器	新田 期河川氾濫堆積物 崩壊、風化碎屑物	砂・礫	
		洪積世	2.9	後期 低位段丘 (金ヶ崎面)	後期旧石器 中期*	段丘堆積物(河成層)
	80.0		中 期	中段段丘 (村崎野面)	(火山成層) * (河成層)	細粒火山灰 軽石 火山角礫岩の二次堆積物
			前 期	高位段丘 (西根面)	早期旧石器	(河成層) * (火山成層)
	200.0	前 期	高位段丘 (西根面)	早期旧石器	(火山成層) * (河成層)	細粒火山灰 砂、礫 火山・凝灰角礫岩
第三紀	鮮新世	真流層 全沢層 本畑層	東部丘陵地、北上川沿い 南西部丘陵地、和賀・夏油川沿い	粗粒・凝灰質砂岩 {凝灰質頁岩、凝灰 岩、赤嵐、礫岩 安山岩質集塊岩}	粘土(泥岩) 砂(岩) シルト(岩)	
	中新世	福瀬層	東部丘陵・小起伏山地	安山岩質角礫岩		
中生代	白堊紀		花園岡緑岩(貫入岩)			

最後に北上川河岸低地を見ておく。ここにも他と同様に自然堤防・後背湿地・旧河道・砂洲・砂礫堆その他が形成されており、一様な低平地では決していない。

以上の段丘・自然堤防などは後述のように集落立地と密接な関係を有している。

## 2. 遺跡の立地について (第1図)

遺跡の立地と地形との関係(とりわけ胆沢扇状地におけるそれ)については別にふれるので、ここでは概観するにとどめる。既述の如くにこの地域は段丘群の発達が顕著であり、それと遺跡立地は密接に関係している。

確実例の多い縄文時代からみると、北上川河岸低地(沖積地)以外のあらゆる地域を占地しているといつてよい。勿論段丘面上に見られる小規模な水系と密接に関連しながら分布することはいうまでもない。伊藤鉄夫氏の教示によると縄文時代内の時期による立地の変遷がある。それは晩期などより新期になればより低位部分へ立地する傾向下にあるというものである。胆沢扇状地の扇頂部たる宮沢原(中段段丘上)周辺においても、扇端部たる低位段丘の崖縁部においても共通する。前者においては、より高位置に見られる晩期遺跡は低位置のそれに比しより小規模化する、という形をも伴っている。縄文時代晩期には河川沿いの自然堤防上を占地するなど「低地進出」傾向が顕著なことは既によく知られた現象である(本地域の里楢など多数の例)が、それが本地域の高位部においてはこのような具体相を示すことになる。

弥生時代については数類型ある。常盤遺跡などの河岸低地上の微高地を占地するもの、杉の堂・橋本、胆沢町角塚古墳周辺など低位段丘上に立地するものである。しかしこの両者はいずれもその前提として規模の大小はあるものの沖積地の存在があると思われ、その点で共通性がある。なおこの立地原則は、古墳時代・奈良時代前半と共通するものである。この他に山腹などを占地する例もあり、この時代についてはその生業的側面を単一の視点から検討するのみでは不十分なことは明らかである。

なお河東の江刺地方においても、河岸低地の微高地(自然堤防上)への占地が見られ、それは住居跡を伴うものであった可能性が高い。伴出土器に榎圧痕も見られることから稲作を行っていた可能性大のものもある。常盤例に共通しよう。

古墳時代についてもその類例が増加しつつある。その立地は低位段丘面上形成された小規模な自然堤防様の微高地上、開析されて形成された崖状地形の縁辺部、あるいは段丘崖縁部などに限定される。角塚付近では化石河床の合流も見られ、沖積地の発達がある。高山・西大畑・面塚・膳性などがそれらに該当し、少なくとも前三者においては、その眼前に泥炭層の発達も想定しうるほどの湿地帯をひかえる、という共通点をもつ。今後は遺跡周辺の微地形をさらに検討し、存在したであろう小規模な水系との関係などを確認する必要がある。

7世紀代～8世紀初期（奈良時代初期）までについては、基本的には類似した占地を示し、西大畑・膳性・面塚などにおいては前代のもと重複して存在する。集落規模は前代に比し若干大きくなるものの、その占地に変化はほとんどない。これが生産力のいかなる状況を反映するかは検討に値する課題である。

8世紀前半（奈良時代前半）のものも大略共通する占地を示す。ただし玉貫のようにより低位の沖積段丘上を占地する例もある。ただしこの利用状況は、古代についてはこの時期の単一利用のみが行なわれている。石田例のように崖縁辺からより内部への進出が見られる場合もある。

8世紀後半（奈良時代後半）も基本的には同一の占地を示すが、前述の崖縁部より若干内部も占地例がさらに増加する。さらに胆沢町小十文字のように中位段丘下段の福原段丘面上にのるものも出現する。占地上でもかなり変化が始まりつつあるといえよう。

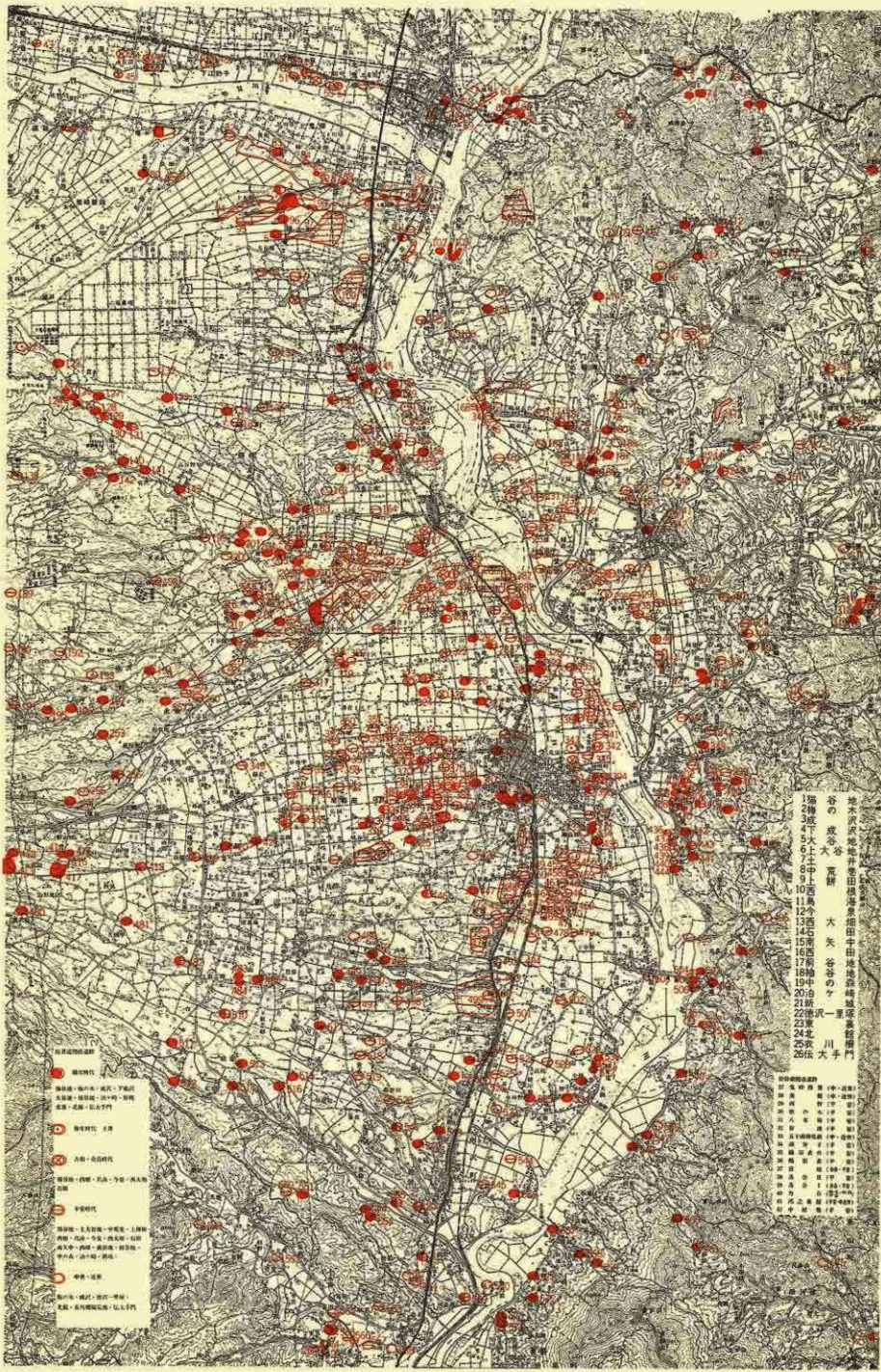
以上のように7世紀～8世紀の占地は基本的には低位段丘面上にのる場合が多いが、現状での遺跡分布は水沢段丘の北半部（福原段丘の崖縁の東西延長線上より北）に限定され、それ以南には稀である。同一段丘面上ではあるが、水系の発達がまったく異なる様相を示すことによるのであろうか。また河東の江刺地方においては、奈良時代後半（末期）ごろに既述の弥生時代と同一の微高地上へも進出し始める。ここにおいても何らかの変化のきざしが見えはじめたといつてよいのであろう。

平安時代になると占地の巾は一気に拡大し、従来の低位段丘面に加え、河岸低地上の自然堤防上、（低位の）水沢段丘の南半の自然堤防上、中位段丘面上へも進出しはじめる。先行する時期の集落の痕跡を何ら示さない例も多い。また前代から継続してきた集落の中にも大溝などを伴う例が出てくる。したがって、この期の集落の営なまれ方には、かなり政治的なもの（計画村落）があることが窺われる。

以降の時代については省略するが、中・近世の城館は、陸上・水上交通の要地に設けられることはいうまでもない。

再度古代についてふれてまとめとする。古代も比較的初期、とりわけ古墳時代に関連する遺跡・遺物が（北上河西については現流路よりかなり）西に偏した部分にも検出されている点に留意すべきであろう。角塚そのものの位置のみならず、金ヶ崎町高谷野原の須恵器の存在、同館山遺跡における円筒殖輪の出土などからすると、該期における重要性が反映していると考えられるのである。諸先学により、古代の交通路はより奥羽山脈寄りなることが既に述べられてきたが、それをさらに確認する意味でもこの地域が注意されてよい。それら単に南北の交通路のみならず東西の交通路にもなりうる地点だからである。

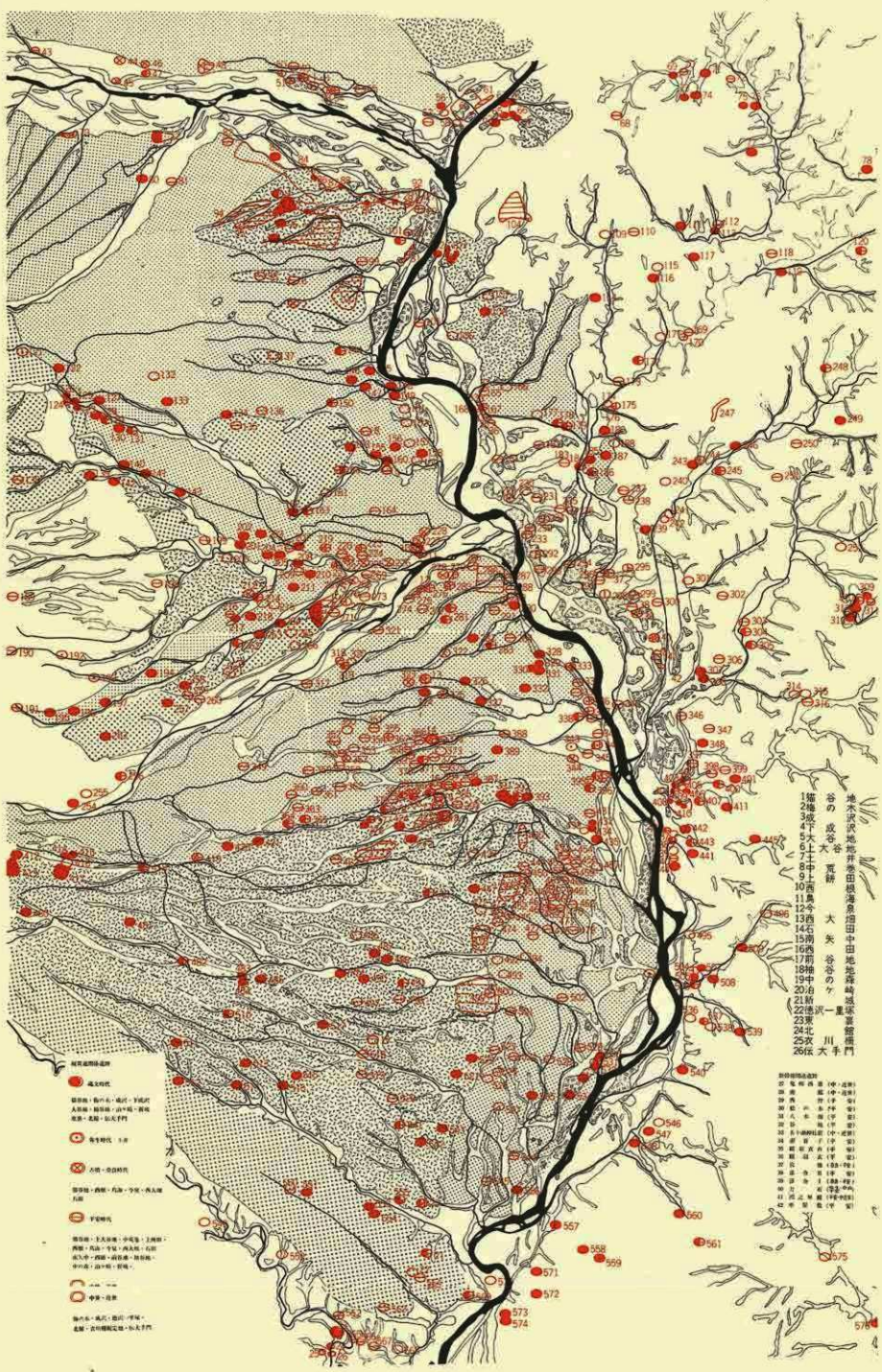
注 林前遺跡、岩手県水沢市文化財報告書 第3集 水沢市教育委員会 1979.3



地方自治体別市町村界  
 谷の成 大矢 谷谷ヶ 川大平  
 1 堀内  
 2 成下  
 3 大上  
 4 土上  
 5 土上  
 6 土上  
 7 土上  
 8 土上  
 9 土上  
 10 土上  
 11 土上  
 12 土上  
 13 土上  
 14 土上  
 15 土上  
 16 土上  
 17 土上  
 18 土上  
 19 土上  
 20 土上  
 21 土上  
 22 土上  
 23 土上  
 24 土上  
 25 土上  
 26 土上

市界  
 ● 市界  
 ○ 町界  
 ○ 村界  
 ○ 大字界  
 ○ 郡界  
 ○ 県界  
 ○ 国界  
 ○ 道界  
 ○ 支庁界  
 ○ 市界  
 ○ 町界  
 ○ 村界  
 ○ 大字界  
 ○ 郡界  
 ○ 県界  
 ○ 国界  
 ○ 道界  
 ○ 支庁界

市界  
 ● 市界  
 ○ 町界  
 ○ 村界  
 ○ 大字界  
 ○ 郡界  
 ○ 県界  
 ○ 国界  
 ○ 道界  
 ○ 支庁界  
 ○ 市界  
 ○ 町界  
 ○ 村界  
 ○ 大字界  
 ○ 郡界  
 ○ 県界  
 ○ 国界  
 ○ 道界  
 ○ 支庁界



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26  
 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26  
 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

凡 (一) 凡一 (二) 凡二 (三) 凡三 (四) 凡四 (五) 凡五 (六) 凡六 (七) 凡七 (八) 凡八 (九) 凡九 (十) 凡十 (十一) 凡十一 (十二) 凡十二 (十三) 凡十三 (十四) 凡十四 (十五) 凡十五 (十六) 凡十六 (十七) 凡十七 (十八) 凡十八 (十九) 凡十九 (二十) 凡二十 (二十一) 凡二十一 (二十二) 凡二十二 (二十三) 凡二十三 (二十四) 凡二十四 (二十五) 凡二十五 (二十六) 凡二十六 (二十七) 凡二十七 (二十八) 凡二十八 (二十九) 凡二十九 (三十) 凡三十 (三十一) 凡三十一 (三十二) 凡三十二 (三十三) 凡三十三 (三十四) 凡三十四 (三十五) 凡三十五 (三十六) 凡三十六 (三十七) 凡三十七 (三十八) 凡三十八 (三十九) 凡三十九 (四十) 凡四十 (四十一) 凡四十一 (四十二) 凡四十二 (四十三) 凡四十三 (四十四) 凡四十四 (四十五) 凡四十五 (四十六) 凡四十六 (四十七) 凡四十七 (四十八) 凡四十八 (四十九) 凡四十九 (五十) 凡五十 (五十一) 凡五十一 (五十二) 凡五十二 (五十三) 凡五十三 (五十四) 凡五十四 (五十五) 凡五十五 (五十六) 凡五十六 (五十七) 凡五十七 (五十八) 凡五十八 (五十九) 凡五十九 (六十) 凡六十 (六十一) 凡六十一 (六十二) 凡六十二 (六十三) 凡六十三 (六十四) 凡六十四 (六十五) 凡六十五 (六十六) 凡六十六 (六十七) 凡六十七 (六十八) 凡六十八 (六十九) 凡六十九 (七十) 凡七十 (七十一) 凡七十一 (七十二) 凡七十二 (七十三) 凡七十三 (七十四) 凡七十四 (七十五) 凡七十五 (七十六) 凡七十六 (七十七) 凡七十七 (七十八) 凡七十八 (七十九) 凡七十九 (八十) 凡八十 (八十一) 凡八十一 (八十二) 凡八十二 (八十三) 凡八十三 (八十四) 凡八十四 (八十五) 凡八十五 (八十六) 凡八十六 (八十七) 凡八十七 (八十八) 凡八十八 (八十九) 凡八十九 (九十) 凡九十 (九十一) 凡九十一 (九十二) 凡九十二 (九十三) 凡九十三 (九十四) 凡九十四 (九十五) 凡九十五 (九十六) 凡九十六 (九十七) 凡九十七 (九十八) 凡九十八 (九十九) 凡九十九 (一百)